

本時の授業の見方

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業づくりを進めることで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが大切です。

道徳科の授業は、教師と児童生徒が一緒になってつくるものであり、「考え、議論する道徳」の捉え方も一つではないと私たちは考えています。その上で、私たちの研究においては、以下の4つの視点で、「考え、議論する道徳」の授業づくりについて、研究してきました。

1. 児童生徒に問題意識を持たせる授業
 2. 登場人物の心情や考えを自分との関わりで考えさせる授業
 3. 多面的・多角的に考えさせる授業
 4. これまでの自分を振り返らせ、これから生きていく上で大切にしたい自分なりの考え（納得解）を見つけさせる授業
- ※ 学習指導案（細案）には、上の1, 2, 3, 4に、特に対応する学習活動や発問にそれぞれ問、自、多、生の記号を付けています。

1. 問題意識を持たせる

選択問題について考えさせつつ、「実生活では自分の行動に、どのような結果が伴うかを予め知ることはできませんよね」と投げ掛ける。生徒が「確かにそうだなあ」「どのように判断して行動したらよいのだろう」という相づちや表情をしているか注目してください。

2. 自分との関わりで考えさせる

「みんなは絵里の気持ちを理解できますか」「みんなはどの気持ちに近いですか」「自分だったら坂先生に相談しますか」と問い返して、教材の読み取りではなく、自分との関わりで考えさせることを目指します。

3. 多面的・多角的に考えさせる

主人公の絵里だけでなく、後輩や顧問の立場を捉えて考えさせる問い返しの発問を準備します。また、絵里の自分で判断し、行動しようとする強さと顧問を頼ってしまいそうになる弱さを捉えて考えさせる問い返しを準備して、ねらいとする道徳的価値について、多面的・多角的に考えさせることを目指します。

4. 自己の生き方について考えさせる

導入時の選択問題と終末における自分の考えを比較させつつ、振り返りの視点を与え、ねらいとする道徳的価値についての自分の考えを書く活動を設定します。さらに、一人一人がどのような納得解を見つけたのかを全体で共有し、道徳的価値について、多様な感じ方・考え方があることについて理解させることを目指します。

導入

展開

終末